



KUMA VILLAGE  
MASTER PLAN

# 基本 構想

## 第1章

## むらづくりの目指す方向

## 1 基本理念

本村では、村民であることに誇りを持ち、自然に感謝し教養を高め、生きがいのある住みよい村とするための村民の行動規範として村民憲章を平成6年（1994年）11月に制定し、村民が総力をあげてむらづくりに取り組んできました。この村民憲章は、村民のむらづくりへの想いが集約された、活力ある地域社会を支える象徴的なものであり、これからの球磨村のむらづくりにおける普遍的な考え方であることから、将来においても引き継いでいくべきものです。

本計画においても、これまで築いてきた村民憲章へ込めた思いを継承して、基本理念として位置づけ、新しいむらづくりの価値創造を目指していくこととします。

## —生きがいのある住みよい村—

- 自然を愛し 美しい村をつくります
- 健康に努め 明るい村をつくります
- 人に優しく ころ豊かな村をつくります
- 進んで学び 文化のかおる村をつくります
- 仕事に誇りをもち 伸びゆく村をつくります

## 2 将来像

本村は、令和元年度（2019年度）を初年度として令和10年度（2028年度）を目標年次とする「第6次球磨村総合計画」において「豊かな心と美しい水と緑が輝く 酸素ちょっと濃いめの 生き生き山村 くまむら」を将来像に掲げ、その実現を目指し、諸施策に取り組んできました。

しかし、令和2年（2020年）7月に発生した豪雨災害により、本村の状況は一変しました。本村では、災害からの創造的復興を迅速に進めていくために、令和3年（2021年）3月に「球磨村復興計画」を策定し、「災害に強く、豊かな地域資源を後世に継承し、住民が安全に安心して住み続けられる里山『球磨村』の復興」を基本理念に掲げ、復旧・復興を進めています。

「第6次球磨村総合計画」の将来像は、令和10年度（2028年度）の未来を見据えて設定した将来像であり、本来は変更する時期ではありませんが、災害を受けて、村の状況が策定当時と大きく変わってしまったことを踏まえ、今回、目指すべき将来像を見直すこととし、次のとおり設定します。



## 豊かな自然とともに生き みんながつながる 球磨村

～輝き・活力・誇りを未来へ～

本村は、球磨川と流域の豊かな自然とともに暮らしを育み、その恩恵を受けて生活を営んできました。しかし、令和2年7月豪雨により、その恵みをもたらす自然が時に猛威をふるい、甚大な被害をもたらすものであることを改めて認識しました。

この災害を教訓として、これからも豊かな自然とともに生き、ともに復興・発展を成し遂げ、先人たちが守り、受け継いできた「宝」を次の世代に継承していきます。

また、以前から減少傾向にあった人口は、災害の発生によって更に減少し、各集落で形成されていたコミュニティも大きく変化しました。しかし、変化する地域コミュニティの中で、互いに支え合い、助け合い、子どもから高齢者まで誰もが安心して生活できるように、これからも地域や人と人とのつながりを大切にするむらを目指します。

子どもたちが輝き、若者が活力に満ち、高齢者が誇りをもって住み続けることができるむらを未来へつないでいきます。

# 未来の球磨村のイメージ図



第2章

施策の大綱

1

むらづくりの基本目標

本村のむらづくりの基本理念を踏まえ、将来像を実現するため、施策分野別に5つの基本目標を設定します。

基本目標1

共助のむらづくり  
[コミュニティ・協働・行財政]

全国的に核家族化や価値観の多様化、地域コミュニティの希薄化・脆弱化により、地域や家族が持っていた共助の機能が低下し、子どもや高齢者の見守り、環境美化などの地域課題に対する解決力の低下など、様々な分野で多くの問題が生じています。このような問題の解決のために、地域の祭りや環境美化などの自立した特色ある活発な地域づくりの活動を支援するとともに、地域の活動拠点の整備を推進し、地域コミュニティの維持向上を目指します。

行政改革については、行政改革大綱に沿って、住民福祉の向上につながる行政改革を推進していきます。また、厳しい財政状況の中で、職員一人ひとりがコスト意識を持つとともに、組織のスリム化と効率的な行政システムの構築を目指します。

財政面においては、自治体の財政力を示す財政力指数は県内最低水準となっており、地方交付税や国県の補助金などに頼らざるを得ない状況は依然として続いています。また、借金である地方債の残高は、令和2年7月豪雨に伴う復旧・復興事業も重なり増加傾向にあります。このような中で各種事業を着実に実施していくためにも、健全な財政運営を図るとともに、財政状況の透明性の確保に取り組みます。

また、ふるさと納税※制度を自主財源の確保における有効的な手段として位置づけ、返礼品の開拓・開発や、様々なPR活動を通じて全国から選ばれる自治体を目指します。

3

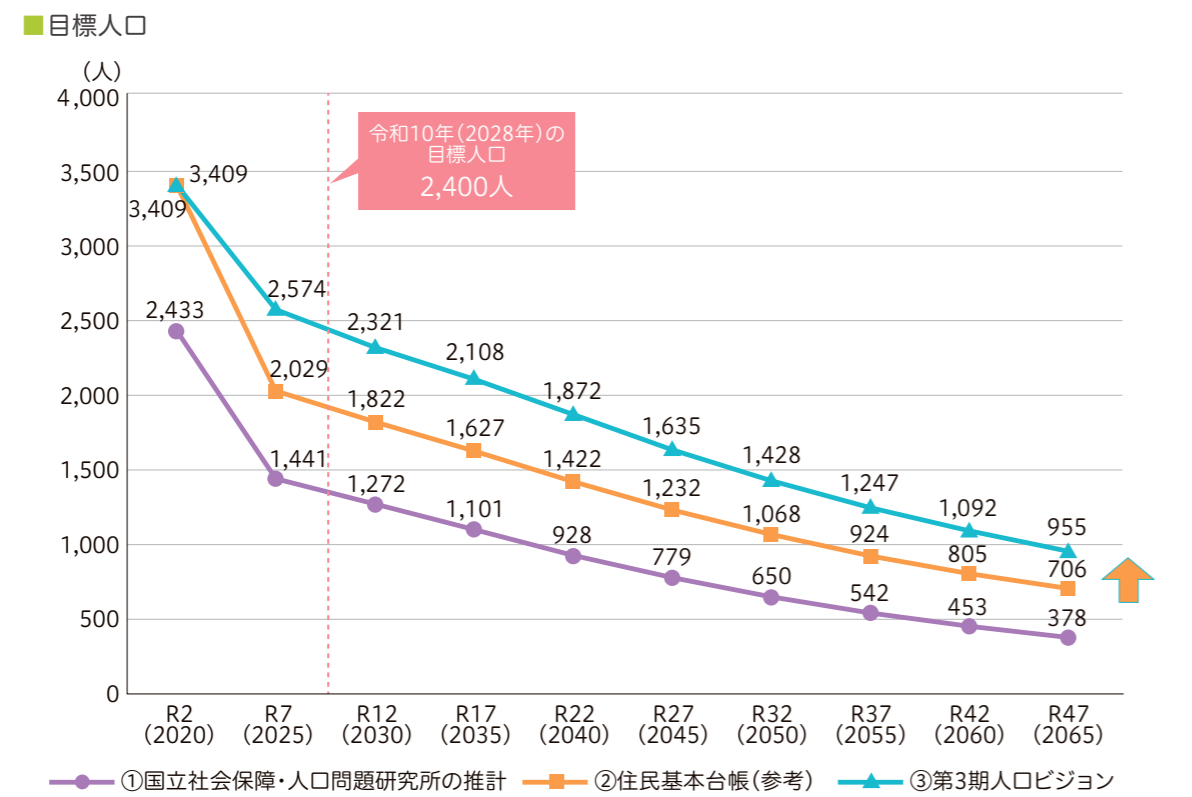
目標人口

本村では、令和2年（2020年）3月に「球磨村人口ビジョン※・改訂版」及び「第2期球磨村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和42年（2060年）で1,921人（平成27年（2015年）人口の約50%）を維持する目標を設定していました。

しかしながら、令和2年7月豪雨が発生し、多くの方が村外への避難を余儀なくされたこともあり、村の人口は激減してしまいました。令和2年（2020年）10月に実施された国勢調査に基づく国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和32年（2050年）で650人となっています。

ただし、令和2年（2020年）の国勢調査については、災害後の村外避難者がいる状況で調査されたものであるため、実際の居住者よりも少ない人口となっています。国勢調査後に避難先から戻られた世帯もありますので、今回の人口ビジョン作成にあたっては、実際の居住者数により近い住民基本台帳を基にした人口推計を使用し、各施策を実施することで減少の傾きを緩やかにすることとします。

このようなことから、本村では、第6次総合計画（後期基本計画）に掲げる将来像を実現すべく、基本施策を推進し、令和10年（2028年）に人口2,400人の維持を目指します。



資料：国立社会保障・人口問題研究所に準拠し作成  
 ※①は、令和32年（2050年）までは、国立社会保障・人口問題研究所による本村の将来推計であり、令和32年（2050年）以降は、それまでの伸び率を参考に本村で算出したものです。  
 ※②は、住民基本台帳を基とした本村の総人口に差し替え、推計したものです。（令和2年（2020年）のみ実数）

※人口ビジョン…自治体が策定する、将来目指すべき人口の姿と、その実現に向けた施策を定めた計画。

※ふるさと納税…自分の選んだ自治体に寄附（ふるさと納税）を行った場合に、寄附額のうち2,000円を超える部分について、所得税と住民税から原則として全額（一定の上限はある。）が控除される制度のこと。

## 基本目標 4

## 健康・長寿のむらづくり

[健康・福祉]

子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた地域の中で、お互いが支え合い、健やかに生き生きと暮らすことのできるむらづくりを目指します。

そのためには、生涯を通して心身ともに健康にすごせるよう、それぞれの年代に応じた健康づくりを進める必要があります。

健康づくり事業においては、村民自らの健康寿命※1 延伸の取組を支援するとともに、若い世代から病気の発症予防・重症化予防のための各種検診、個別保健指導、医療機関との連携など、きめ細かな支援を行い、医療費の抑制を図ります。

また、母子保健事業においては、安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠・出産・子育てへの切れ目のない支援を行い、子どもの健やかな成長を促すための健康管理や育児支援の充実を図り、安心して子育てできる環境づくりを進めます。

地域医療については、球磨村診療所を核として、村内の保健・福祉施設などとの連携を一層強化し、地域医療体制や救急医療体制などの整備・充実を進めます。

介護保険事業については、介護保険の円滑な運営を確保するとともに、高齢者が地域で自立した生活を継続していくことができるよう地域包括ケア※2 システムの深化・推進を図ります。

高齢者福祉については、高齢者福祉及び介護保険事業計画に基づき生涯現役社会の実現と自立支援、健康づくりの推進、認知症になっても安心して暮らせる体制づくり、安心して暮らせるための医療と介護の連携・充実、地域の実情に応じた多様なサービスの充実に取り組みます。

障害者福祉については、障害のあるなしにかかわらず、誰もが地域で安心して生き生きと生活できる環境の整備、活動参加の機会の確保を図っていきます。

## 基本目標 2

## 地域資源を活かしたむらづくり

[産業・観光]

農業が職業として選択され得る魅力とやりがいのあるものとなるように、将来の農業経営の発展目標を明確にし、農家の所得向上を目指した農産物の販路拡大や6次産業化の推進、効果的かつ安定的な農業経営への支援、耕作放棄地の解消及び発生防止、集落を構成する小規模農家への支援を図ります。

また、本村の経済に大きな影響を及ぼす林業においては、森林組合との連携を強化し、担い手の育成、木材販売の促進、木質バイオマスの活用などによる生産拡大及び獣害・災害対策、水源の涵養などの公益機能の充実を図り、的確な森林整備と林業の安定的な経営のため森林道の計画的な整備を推進します。

本村には、九州最大鍾乳洞の「球泉洞」、日本三大急流「球磨川」、日本棚田百選の「松谷棚田」や「鬼ノ口棚田」など、貴重な地域資源があります。しかしながら、JR 肥薩線については、令和2年7月豪雨で被災し、現在も運休している状況にありますので、今後は、JR 肥薩線の「鉄道での復旧」と「鉄道を軸とした地域振興」を進めるとともに、貴重な地域資源を保全するため、継続的に環境整備に取り組みます。さらに、地域資源を最大限に活用した観光客の誘致拡大に努め、地元産業関係者と連携を図りながら観光商業に取り組みます。

また、レンタルオフィス※1 やコワーキングスペース※2 を活用し、新規創業の促進、雇用の創出、移住促進、交流人口の拡大による地域活性化を図っていきます。

## 基本目標 3

## 安全・安心な暮らしの環境づくり

[基盤・安全・環境]

村民の方々が、将来にわたり豊かな暮らしを送るための基盤整備は、定住人口を維持するためにも重要となります。安全な水の供給、ごみや廃棄物の適正な処理に努め、公営住宅の整備と民間住宅の地震対策、空き家の有効活用を図ります。

交通基盤の整備については、村道や交通安全施設の適正な維持管理に努めるとともに、通院や買い物など、高齢者を中心に貴重な交通手段となっているコミュニティバスや、高齢者や障害のある人などを対象とした福祉有償運送の利便性の向上を図ります。

また、抜本的な治水対策と急傾斜地対策などの生活基盤の整備を推進するとともに、災害に強いむらづくりを目指す「球磨村復興まちづくり計画」に基づき、激甚化する災害などへの対応を強化します。併せて、防災力向上を図るため、自助・共助・公助の考えのもと、消防組織力強化の取組と村民一人ひとりの自主防災意識の醸成を図ります。

環境を守り、自然と共生するむらを目指し、自然環境を保全すると同時に、「球磨村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づいた温室効果ガスの削減、「脱炭素先行地域事業計画」に基づいた再生可能エネルギーの導入などに積極的に取り組み、地球温暖化対策を牽引していきます。

※1 レンタルオフィス… 事業を運営するために必要なオフィススペースを短期または長期で借りるサービスのこと。

※2 コワーキングスペース… 様々な職業の人が集まって仕事をする共有ワークスペースのこと。

※1 健康寿命… WHO（世界保健機関）が2000年に「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義・提唱した概念。

※2 地域包括ケア… 医療・介護・予防・住まい・生活支援が互いに連携し、医療や福祉・介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を続けることができるよう支援を行うこと。

## 基本目標 5

## 未来を拓く人づくり

[子育て・教育・文化]

子育て世帯については、安心して子どもを産み育てられる環境や、多様化する保育ニーズに対応した延長保育や学童保育など、保育所で実施する取組や、子育て支援センターでの活動などの子育て支援を充実させるとともに、医療費や保育料の無償化などの経済的支援を継続します。

学校教育においては、基礎的・基本的な知識と技能を習得し、自ら考え、学び続けることのできる確かな学力の育成、人を思いやり、命を大切にする豊かな心の醸成、心身ともにたくましく、粘り強く未来を生き抜くための健康な体の育成といった「未来を生き抜く力」の育成を目指し、取組を推進します。

また、学校と家庭や地域が一体となって、特色ある教育活動や地域とともにある学校づくりをできるよう、より良い教育環境の整備に努めるとともに、家庭の教育力向上に向けた支援を行います。

さらに、児童・生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう、学校施設の維持管理や連携体制の構築を計画的に行うとともに、教職員の資質向上や働き方改革により、教職員が児童・生徒の成長を十分にサポートできる体制づくりに努めます。また、令和2年7月豪雨により学校施設が被災し、孤立したことを踏まえ、災害の教訓を活かし、子どもたちが安全に、安心して学校生活を送れる学校施設の環境整備に努めます。

そして、むら全体の活力と魅力を高め、本村の愛着と誇りを感じることができ、全ての人が生涯にわたって学び続けることができるよう、住民主体のスポーツ活動、芸術・文化活動を推進します。“「学び」を楽しみ「笑顔」あふれるむら”を目指すべく、学びの成果をみんなで楽しみ、活かし、人が輝くむらづくりを目指します。